

# 桐 kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌

学校法人 目白学園

目白大学大学院

目白大学

目白大学短期大学部

目白研心中学校・高等学校

第16号

通算114号

2009.7



Special issue-1

**国家試験の合格率を上げる  
実習重視のカリキュラム**  
保健医療学部の Quality Education

Special issue-2

**研究水準維持と“教師力”アップの  
両立へのチャレンジ**  
科研費獲得実績が大幅向上

短大生活福祉コース

東京都の委託による介護福祉士養成科を開講  
学園インフォメーション

輝く目白の星

**人生100年の時代  
大学院で会計理論を究めたい**

大学院経営学研究科経営学専攻 博士後期課程1年  
加藤 隆之さん(公認会計士)



保健医療学部 Quality Education

# 国家試験の合格率を引き上げる 実習重視のカリキュラム

今春、理学療法学科と作業療法学科の第1期生たちが、4年間の学びの集大成である国家試験の難関をクリアし、念願かなって医療人としてのキャリアの第一歩を踏み出しました。初年度から合格率が全国平均を上回った背景には、最新鋭の機器・設備に代表される恵まれた学びの環境、そして教育スタッフのきめ細かいサポート体制に加えて、実習を重視する充実したカリキュラムの存在があったようです。

理学療法士、作業療法士になるためには、決められたカリキュラムを履修した後、国家試験に合格しなければなりません。ところが、理学療法学科の宮崎純弥専任講師と作業療法学科の會田玉美教授によれば、「全国的には国家試験の合格率が低下傾向にある」とのこと。そうしたなか、本学両学科の第1期生たちは、通常なら身近な成功例となるべき先輩がいない不利な学習環境にあったにもかかわらず、いずれも全国平均を上回る合格率（理学療法は91.5%、作業療法は82.9%）で難関をクリアしました。

この結果を、宮崎講師は次のように分析しています。「国家試験は理学療法、作業療法に共通の出題である共通科目と、個々の専門を問う専門科目から構成されています。このうち、専門科目は患者さんの様子が示された図入りの設問になっていて、それらの問題への配点が高い。正答するためには、実習でどのくらい多くの患者さんとかかわることができたかが大きなカギになるのです」



## 学生を見違えるように成長させる実習

本学の理学療法学科では、1年次から「見学実習」が1週間組まれています。理学療法士の仕事の流れを大まかに把握し、実際に患者さんとのコミュニケーションを試みることが目的です。学生は、セラピストとしての心の豊かさを育む上で重要な一般教養や、解剖学、生理学などの基礎医学を学びながら、早い時期に現場を体験することができるわけです。

続く2年次の「基礎実習」では、1つの施設に1週間通い、コミュニケーション能力のスキルアップに加え、春学期に学んだ「理学療法評価学」を現場で実践的に学びます。「評価」とは、情報収集や検査を行って患者さんの状態を把握するまでの一連の手続きです。

3年次の「評価実習」では3週間かけてこの「評価」にさらに磨きをかけ、ゴールを設定してプログラムを作成するところまで実践。その内容を、4年次の治療実践につなげていきます（4年次の実習は8週間×2回、計16週間）。

「理学療法士の“心”を学ぶには、実習に行くのが何よりです。患者さんや地域の方と直にふれあうことによって理学療法士になろうというモチベーションも高くなり、患者さんに対する想いも強くなる。学生同士でいくらしっかり練習していても、現場では



思う通りになってくれません。そこで壁にぶち当たって悩んで、考えて帰ってくる。学生たちは、実習で見違えるほど成長しています」と、宮崎講師は実習の意義を力説しています。

## 経験増に重点を置く新しい実習方法

一方、作業療法学科の実習も3年次までは理学療法学科と同じように進んでいきますが、4年次の「総合臨床実習」に本学ならではの方法を取り入れています。「クリニカルクラークシップ」と呼ばれる医学部をモデルにしたやり方で、実習生は一人の指導者に付き、助手としていろいろな仕事をこなします。できないところ、危険なところだけは指導者の手を借りますが、その指導者が受け持つ10～15人の患者さんすべての治療プロセスに携わることができる、大変実効性のある方法です。一人の患者さんと深く接することももちろん大事ですが、まず経験値を増やすことに実習の重点を置こうという発想に基づいた新しい手法なのだとか。



「この新しい方法を導入するには、受け入れ先との連携や協力はもとより、教える側も勉強しなくてははいけません。まだ道半ばですが、ぜひこの方法を確立させていきたいと思います」と、會田教授はさらなるカリキュラム充実への意気込みを語っています。

そして両学科に共通しているのは、実習をより実りあるものにするための準備として、O

SCE（オスキー）と呼ばれる客観的臨床能力試験を必ず受けさせてから送り出しているということです。

## より多くのプロ養成が期待される両分野

このような実効性のある実習プログラムに加えて、岩槻キャンパス内での学習環境も整備されています。3次元動作解析装置や筋力測定機器等、最先端の設備を備えた運動学研究実習室や、大きな治療用プールを備えた水浴室などはその代表格。受験生を対象に行われるオープンキャンパスでは、毎年多くの未来の理学療法士、作業療法士たちがこれらの機器を実際に体験使用し、入学へのモチベーションを高めています。



さらに、学生同士、そして教員と学生の距離の近さも大きな特長の一つ。同じ志を持って入学してきた学生同士に固い連帯感があることに加え、一緒に目標を達成

していこうという教職員のきめ細かなサポート体制も目白大学の誇れる点だと、両先生は口を揃えて強調します。

だいぶ増加したとはいえ、理学療法士も作業療法士もまだまだ不足が叫ばれる分野です。「理学療法は、人が相手。仕事を通じて自分の考えも広がるし、人間的な成長も期待できます。その上、人の役に立てる、誇りを持てる仕事ですから、是非多くの方に志していただきたいと思います」（宮崎講師）

「作業療法では、体の動きや日常動作だけでなく、社会との関わりや個人的な因子、取り巻く環境など、患者さんを見る視点が多岐にわたります。そして、患者さんの各段階の“目的”に共感して、達成をサポートするのが作業療法士。そこにマニュアルはありません。本人が成長した分だけ作業療法士としてのグレードも上がります。経験が増えれば増えるほど、発見も多くなる。だから、一生楽しく続けられる仕事だと思います」（會田教授）と、両先生ともこの魅力溢れる分野への関心が高まることを期待しています。

### 卒業生の声



**黒川 秋子 さん**  
理学療法学科 平成21年3月卒業  
慈誠会徳丸リハビリテーション病院勤務

第1期生として理学療法学科を卒業し、現在は回復期病院で主に脳血管障害の方へリハビリテーションを提供しています。在学中に特に興味を持った地域理学療法学科の一端を担う分野で働くことができて、大変嬉しく思います。将来は、在宅サービスを中心とした地域に根ざしたリハビリを中心に、患者さんとそのご家族を第一に考えた包括的なサービスを提供できるセラピストになりたいと思っています。大学時代の実習は決して楽なものではありませんでした。しかし、人の命を預かる職業に就くことはそれだけ重みのあることだと教えてくれたのも実習です。つらいこと、悲しいこともありましたが、だからこそ患者さんの笑顔や優しさ、スタッフの心遣いがありたく感じる事ができたのだと思います。

実習前に多くの学生が有志で集まり、ともに学び合い、試行錯誤しながら練習を重ねたことで結束が強まり、厳しい実習も乗り越えられたのだと思います。もちろん、分かりやすい授業と親身なアドバイスをサポートして下さった先生方にも感謝しています。

### 卒業生の声



**松崎 薫 さん**  
作業療法学科 平成21年3月卒業  
イムス板橋リハビリテーション病院勤務

在学中から、脳血管疾患に対する作業療法に関心がありました。脳血管疾患の患者さんは心身機能の問題だけでなく、高次機能障害を伴っていることもあり、その分だけ社会復帰が難しくなります。そうした方が地域で生活していくために作業療法士がどう介入すれば良いかを、目白大学で学びました。作業療法は、日常生活に視点を向けてアプローチする点が理学療法との大きな違いです。方法は千差万別。「患者さんが社会復帰するにはどのようなアプローチを選択すべきか」を考える楽しさを日々感じています。

実習の一番の思い出は、最後の日に担当した患者さんからお手紙をいただいたこと。「あなたのリハビリが私の心に響いています。良い先生になってください」と書かれていて、知識や技術はともかく相手のことを一生懸命考えた気持ちが届いたことがとても嬉しかったのを覚えています。心身機能の改善だけに目を向けるのではなく、患者さんの生活を考えたりリハビリで、地域生活を支援できるような作業療法士を目指します。

科研費獲得実績が大幅向上

# 研究水準維持と“教師力”アップの両立へのチャレンジ

目白大学ではここ数年、国の研究補助費である科学研究費補助金（科研費）の獲得額が上昇を続けています。これは、本学教育スタッフの研究水準の高さを証明するものであると同時に、学生への真摯な接し方を模索する教育者としての質の高さを示しているとも言えるでしょう。昨年（平成20年）度、科研費を獲得した本学の教員は23名（24件）。その中から今回は、2件の研究が同時に採択された英米語学科の時本真吾教授と、1件で本学獲得総額の約1割に相当する研究が採択された看護学科の小林紀明准教授に、それぞれの先端的な研究の意義と教育者としての考えを語ってもらいました。



時本教授の研究室での実験

科研費とは、あらゆる分野の独創的・先駆的な学術研究を進展させることを目的として国から交付される総額2,000億円規模の研究補助費のこと。全国の研究者が自身の研究推進のためにその獲得を目指す、いわゆる「競争的資金」の代表的存在です。新規採択は毎年、応募総数の2割程度と、厳しい競争となります。

目白大学では近年、この科研費の獲得総額が増加を続けています。昨年（平成20年）度の採択件数はその前年の11件から24件へと倍増し、交付総額に至って

は約3倍以上（合計41,948,000円）を記録しました。過去7回の採択実績を持ち、昨年は2件の研究が同時に採択された英米語学科の時本教授は、「この数字は、本学の規模からすると大いに健闘しているといえるでしょう。科研費獲得額はその大学の研究水準を端的に表す数字ですから、大学選びの大切な指標として、今後ますます重要な情報になってくると思われます」と、科研費増加の意義を強調します。

同じく昨年度に採択された看護学科の

小林准教授も、「近年、本学にも研究に高額の経費を要する自然科学系の学部が設立され、全国規模の調査を必要とする研究も増えてきました。目白大学の内部でも、審査を経て競争的に獲得できる特別研究費が設定されていますが、より充実した研究継続のために、研究者自ら研究資金を学外の機関から調達することが求められるケースも多々あります。目白大学としても、各教員に科研費申請を奨励する方針を打ち出しています」と、外部資金獲得に対する大学全体の積極性を指摘しています。

科研費の獲得は日本中の研究者が競争する激戦ですから、一度の挑戦で採択されるとは限りません。計画を練り直し、指摘を受けたポイントを検討し直して再度申請し直すことも少なくないとか。

「でも、一度のトライであきらめてはいけません。私は、科研費獲得に挑戦することの意味の一つは、自分の研究水準が高く保たれているかを確認することにあると思っています」（時本教授）

平成20年度 目白大学専任教員の科研費採択研究一覧

研究種目	教員の所属学科	研究課題名
特定領域研究	英米語学科	日本語の交差依存文が誘発するERP計測を通じた固有の信号系列処理の検討
基盤研究(B)	人間福祉学科	訪問介護の質を評価する利用者満足度尺度の開発 言語表出の乏しい障害児者の日常生活にAAC機器を導入する効果の検討
	人間福祉学科	日本における学校ソーシャルワーク実践の適応に関する調査研究 被虐待児の養育支援における包括的心理コンサルテーションシステムの開発
基盤研究(C)	地域社会学科	19世紀前中期の江戸・東京における家族の実態と道徳思想
	経営学科	インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの体系化と運用プロセスに関する実証研究
	英米語学科	ファイナンス・リソース取引の測定に関する実証的研究 再解析文の聴覚提示による統語的制約、韻律、作動記憶制約の相互作用の実験的検討 IRTを援用したプロトタイプ理論にもとづく語彙テストの開発
若手研究(B)	看護学科	看護大学生の自己教育力と親子間の心理的距離との関連に関する研究
	心理カウンセリング学科	応用行動分析学によるアクセパンス技法の効果検証
	人間福祉学科	高齢者のメタ記憶と自己高揚的認知に関する研究
	言語聴覚学科	認知症の人への居宅介護支援サービス提供時のインフォームド・コンセントに関する研究
若手研究(スタートアップ)	看護学科	成人吃音治療における耳掛け型トノメータ・耳掛け型DAF装置の有効性 高照度光療法を用いた術後せん妄回避手法の効果に関する研究
	心理カウンセリング学科	社会不安を低減する向社会的行動に関する国際比較研究
	子ども学科	日本におけるアメリカ合衆国の精神薄弱児教育の受容と放棄に関する歴史的研究
	メディア表現学科	インターネットの活用による地域情報生成過程の変容に関する実証的研究
	経営学科	広告シングルソース・データを用いたパネル別広告効果測定に基づく広告管理モデル開発
	言語聴覚学科	発達性読み書き障害における読みの正確性と自動性に関する研究
特別研究員奨励費	中国語学科	殷墟甲骨文における語彙の研究

地道で継続的な真理探究こそ大学での研究活動の本領

そんな時本教授が昨年、「特定領域研究」として科研費を獲得した研究は、日本語における2つの離れた単語が隣りあったものよりもより強く結びつくような表現（不連続依存文）に出会ったときに、脳がそれをどう処理するかを、脳波を測定することによって明らかにしようという試みです。パソコンの画面に現れた日本語の表現（依存関係が交差した文章）を見たときの被験者の頭皮に現れる電圧変化を、タイムラグとプラスかマイナスかという指標で測定し、それにより脳の中でどんな処理が行われているかを推測する実験を重ねています。時本教授はこの実験を、自身の研究室で、1人で地道に継続しています。というのも、時本教授が受け持つ授業内容と自身の研究内容は、直接的な関係は少ないのだそうです。

教育と研究はともに大学教員の重要な使命であり、両者は決して対立関係にあるものではないのですが、その両立が労多きものであることも事実です。

ただ、時本教授は「就職のためにすぐ役に立ついわゆる実学も必要ですが、純粹な真理探究のための基礎研究もまた大学でしかできないことです。一つのことを追求する基本的な力、これはいわば筋力トレーニングのようなもので、どんな方向に進むにしろ、きっと将来の自分を形づくる基礎と

なってくれると信じています。自分自身の研究を続けながら、大学生の時期にそうした基礎体力をつけるお手伝いをしたい」と考えているとのこと。その語り口からは、大学での地道な研究活動が学生への教育活動にも良い影響をもたらすという、確固たる信念が感じられます。

求められるのは研究と教育の両立

一方、「基盤研究(C)」に採択された看護学科の小林准教授の研究は、「大学生の自己教育力（主体的学び・取り組みの姿勢）と親子の心理的距離の相関関係について」。成長過程にどれだけ親からプラスのストローク（子供に与えられた親の反応をプラス思考で捉えること）を与えられたか、そして現在は親をどのように見ているか、この2つの視点から親子関係を捉えつつ、学びの主体性が育つ経緯を科学的に解明しようとするものです。全国規模で回収した看護学生や他分野の学生併せて7,000にも及ぶデータの解析を通して、今日の一般的な大学生の姿が見えてくるのではないかと期待しているそうです。

「新しい学問である看護学は、いろいろな分野を結集して成り立っています。ですから、看護を目指す学生にも広い視野を持ってもらいたい。特に、人との信頼関係を結ぶスキルを求められる難しい領域なので、看護学生がどのくらい自己教育力を持つ

教員紹介

外国語学部  
英米語学科  
時本 真吾教授  
ときもと しんご

獨協大学大学院外国語学研究所英語学専攻博士後期課程修了、東京大学大学院人文社会科学系研究科心理学専門分野博士課程修了。英語学と心理学、2つの博士号を持つ。鹿児島女子大学文学部助教授などを経て現職。専門は言語学、実験心理学。過去20年で査読付き13本を含む40本以上の学術論文（英語論文は15本）を執筆するなど、精力的に研究活動を行っている。

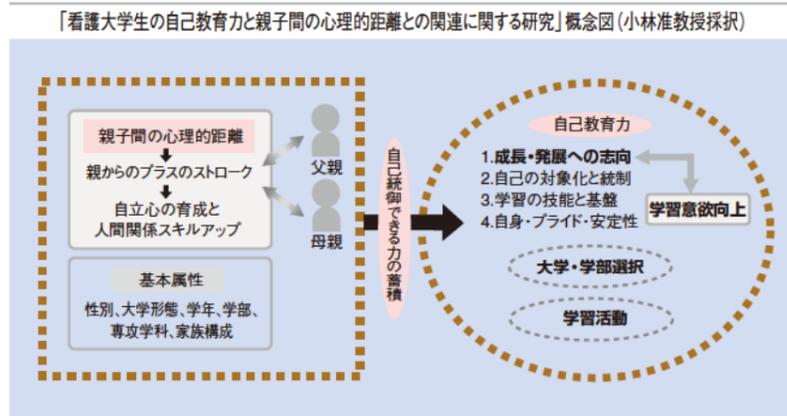
教員紹介

看護学部  
看護学科  
小林 紀明准教授  
こばやし のりあき

東洋大学大学院社会学研究科福祉社会学システム専攻修士課程修了。看護師。国立国際医療センター副看護師長などを経て現職。専門は老年看護学、在宅看護論。特に、ケアマネジメントにおけるアセスメント能力育成カリキュラムに関する研究に力を入れている。科研費以外にも、在宅療養者の自立支援に関する研究が民間の研究支援機関に採択されるなど、着実に研究実績を積み重ねている。

ているのかを確認したいということが、研究動機の一つです。それを極めることによって、学生のサポーターである教師として学生と関わる際の手がかりにしたいと考えています」とは小林准教授。これは、教育と研究とが見事に融合している一例と言えるでしょう。

言語学と看護学、分野は異なりますが、研究者として高い水準を保ちつつ、学生が自らの未来を切り拓く力を身に付けるようサポートするという教育者の立場を両立させていきたいという両先生の考えには、共通するところが多いようです。こうした大学人としての真摯な姿勢が、科研費獲得という形で研究が公に認められる一因なのかもしれません。



短大  
生活福祉  
コース

# 東京都の委託による 介護福祉士養成科生を受け入れ

東京都は昨年末の急激な景気悪化を受けて、公費で介護分野での人材の養成・確保を推進する緊急政策をこの4月より開始しました。都は介護福祉士養成課程のある15校を「介護福祉士養成科実施校」として指定。指定校のほとんどが専門学校となっているなかで、本学の生活科学科生活福祉コースは短期大学として唯一、養成校となりました。

## さまざまな年代がともに学ぶ

この制度は、ハローワーク(公共職業安定所)で求職中の離職者が、東京都が指定する学校で介護福祉士国家資格取得のために2年間、公費で学べるというものです。現在、本学の短期大学部生活科学科生活福祉コースでこの制度を利用して資格取得を目指しているのは27名。20代から50代までの方が、高校を卒業してまもない学生とともに、将来性のある介護福祉士国家資格を取得し福祉の専門家になるべく、同じ教室で学んでいます。目白大学では、この制度を利用した入学者を正規の学生として受け入れ、「社会人本科生」と呼んでいます。

社会人本科生の丸橋真木子さんは、「緑豊かな広いキャンパスで、学生生活を楽しみたい」という理由で、数ある養成校の中から本学を選んだそうです。図書館や食堂をはじめ学内の施設も大いに活用し、スポーツフェスティバルなどの行事も参加しています。小さなお子さんを抱えています。ご家族の理解と応援のもとハードな学習スケジュールをこなしながら、キャンパスライフを満喫しているということです。

介護福祉士資格を取るためには、厚生労働省が定めたカリキュラムを履修する必要があります。専門的な講義や演習に加え、保健体育や日本語表現などの基礎教育科目も履修します。毎週課される課題数も多いうえに、6月中旬からは、学外での12日間の実習を行いました。1月中旬からは23日間、2年次の6月末には20日間の学外実習が予定されており、合計で450時間の実習を含んだ密度の濃い2年間です。

## スローガンは、「みんなで卒業する!」

生活福祉コースの榎木八重子教授は、「どんなきっかけでも福祉の分野に興味を持ち、介護福祉士を目指すということはとても



うれしいことです」と話しています。コースの学生は、介護の世界はまったくの初心者ばかりですが、さまざまな年代でパートナーを組んでの介護技術の演習は、刺激も多いようです。年上の同級生の学習に対する姿勢から、10代の学生は学ぶことも多々あり、また社会人本科生にとっても、若い世代の自由な発想に基づいた意見を聞けるという環境は新鮮で、同世代だけのかかわりでは味わうことができない有意義な日々を送っています。

「社会人経験のある生活体験に基づいての疑問を投げかける社会人本科生のリアクションは、学生にとってわかりやすい授業であるかどうかを検証する良い機会にもなっています」(榎木教授)。

年度初めに新生が入る参加する宿泊研修“フレッシュマンセミナー”にも本科生全員と社会人本科生の約半数が参加しました。そのとき、コース生と一緒に考えたスローガンは、「助け合って、みんなで卒業する!」でした。世代を超えた1年生全員が、協力し合い、2年間で揃って卒業しようという強い思いが込められています。手作りのパネルは、研修から戻ってきた後も、介護実習室のそばに掲げられています。

卒業後は、介護福祉士国家資格を活かして障害者・老人施設、老人介護支援センターの職員や在宅介護支援事業のサービス提供責任者などの正規職員での就職が期待できます。また、経験を積んで、ケアマネジャーの資格を目指す際にも、有資格者として試験の一部免除が可能になります。

## 学園インフォメーション

### 中学校・高校

#### 2009.4.9 入学式

「目白研心」の名で共学校としてスタートした中学校・高等学校の第1回入学式が行われた。野中校長からは建学の精神「主・師・親」と新学校のスローガン「喜学研心」についての講話が、佐藤理事長からは環境問題や国際理解教育へ積極的に取り組もうという激励を込めた祝辞が、それぞれ新入生たちに贈られた。



#### 2009.4.29 チアリーディング部が

吉祥寺音楽祭2009に参加  
中高チアリーディング部「POLARIS」が、吉祥寺音楽祭2009に参加した。普段は体育館で行っている競技を、この日はアスファルトの上で展開。メンバーはダンスにスタンツ(組み体操)、バク転等、難度の高い技を次々と披露し、沿道からは大きな歓声が挙がっていた。



#### 2009.5.16 運動会

目白大学岩槻キャンパスにおいて中高合同の運動会が開催された。あいにくの曇天ではあったが、男子生徒の力強さが競技の随所に加わり、新生・目白研心のスタートらしい新鮮な盛り上がりを見せた。

### 大学・短大・大学院

#### 2009.3.25 学位授与式

中野サンプラザにおいて平成20年度大学・短期大学部の学位授与式が、厳粛な雰囲気の中で執り行われた。今年度は新宿キャンパスの外国語学部4学科、岩槻キャンパスの保健医療学部2学科、短大製菓学科、そして大学院生涯福祉研究科がそれぞれ第1期生を送り出す節目の式となった。小雨がばらつくあいにくの空模様だったが、新宿・岩槻両キャンパスの卒業生・修了生1,238名が本学を巣立っていった。



#### 2009.3.26 メディア表現学科の学生が

公共広告CM学生賞を受賞  
社団法人公共広告機構(AC)が主催する第5回公共広告CM学生賞において、メディア表現学科の学生たちによる共同作品「ネットいじめ一わたくしにできること」が奨励賞を受賞した。この日、汐留電通ホールで行われた表彰式にメディア表現学科の長谷川愛さん、鈴木彩夏さん、五嶋聡美さんが鷲谷正史専任講師とともに出席。歴代最多の応募総数118作品の中から厳しい審査を経ての受賞に、学生たちの喜びもひとしおだった。

#### 2009.4.2 入学式

大宮ソニックシティにおいて、平成21年度大学・短期大学部の入学式が挙行された。今年度は新宿・岩槻両キャンパスの大学・短大・大学院の新生をあわせて1,960名が、厳粛な面持ちで式に臨んだ。

#### 2009.4.6~8 フレッシュマンセミナー

新入生対象のオリエンテーション行事「フレッシュマンセミナー2009」が熱海で実施された。今年度は新入生約1,500名、「リーダー」と呼ばれる先輩学生約170名、それに教職員約80名が参加。授業内容の詳しい説明などでは真剣な面持ちで取り組んでいた新入生たちも、懇親会では一転して和やかな雰囲気に包まれ、新しい交流の輪を生み出していた。



#### 2009.4.26 春のキャンパス見学会

新宿・岩槻両キャンパスにおいて春のキャンパス見学会が開催された。平成22年度の入試方法や新学科の紹介など、最新の情報をいち早く入手しようとする大勢の熱心な受験生が訪れた。また、来年度から学科再編を予定している短大では、生活科学科と新設予定のビジネス社会学科の全コース、そして製菓学科が趣向を凝らした体験授業を実施し、来場者の関心を集めていた。

#### 2009.5.28/5.30 スポーツフェスティバル

28日は岩槻で、30日は新宿で、恒例のスポーツフェスティバルが行われた。岩槻では雨のため一部の種目が中止となったが、参加学生数は過去最高の約800名を記録。新宿でも約1,200名の学生が参加し、両キャンパスで熱戦が展開された。



## 目白研心 スタート!! 中学校・高等学校が

4月1日、目白研心中学校・高等学校が、男女共学の新たな学校としてスタートを切りました。目白学園が中等教育部門に男子生徒を迎えるのは、昭和23年に旧・目白商業学校最後の男子生徒が卒業して以来、61年ぶりのこととなります。新緑に包まれた新学校について野中英雄校長は、「長い間女子校だったので、男子生徒の明るい挨拶がとても新鮮です。さっそくサッカー部・野球部・男子バスケットボール部が新設され、校庭や体育館で男子生徒が元気に活動している姿を見せてくれています」と、共学化による好影響を強調します。もちろん、新学校の影響は進級した女子が学生たちにも及んでいるようで、「生徒全体の動きに新たな活気が出ているのを、日々の生活の中で確かに感じます」(野中校長)とのこと。新しい校

舎に新しい校名、そして新しい生徒たち……。新入生も上級生も、ともにこの新たな環境でよりいっそう充実した学園生活を送っていくことを願っています。



今年4月に挙行された目白大学の平成21年度入学式。大勢の10代の若者たちに混じって、それより70年も年上の新生者が、最前列で静かに佐藤学長の告辞に聴き入っていました。

その新生者の名は加藤隆之さん。この入学式の直後に89歳の誕生日を迎えました。目白大学史上最高齢の入学者であるのはもちろんですが、目白大学の母体である目白学園が建学したのは大正12年なので、大正9年生れの加藤さんは本学園よりも先輩ということになります。

加藤さんが入学したのは、大学院経営学研究科経営学専攻で今年4月にスタートしたばかりの博士後期課程です。文部科学省によれば、平成20年度は大学院博士課程に入学した61歳以上の大学院生が全国で127名いたとのことですが、90歳を目前に控えて博士号にチャレンジする加藤さんの注目度は高く、入学式当日は新聞社や通信社が取材に訪れ、翌日の朝刊で全国で紹介されて大きな反響を呼びました。

### 会計実務の要職を歴任し 日本の監査制度の未成熟さを痛感

加藤さんは昭和18年に陸軍経理学校を卒業した後、戦時中は陸軍の経理部将校として台湾に駐屯し、そこで終戦を迎えます。復員後、会計事務所を独立開業。会計実務の世界でキャリアを重ねる一方、働きながら立教大学で経済学を学び、昭和33年には修士号を取得しました。日本公認会計士協会東京会の会長など日本の会計実務の要職を歴任し、60年以上経った今も現役の公認会計士として活躍しています。

そんな多忙な生活の中で、今回、修士課程修了から51年目にして目白大学で博士号を目指すことを決意。その動機を次のように語ります。「会計実務に長く携わり、諸外国を見てきた経験から、日本の会計監査制度をもっと充実したものになりたいという気持ちを強く抱いていました。日本では、たとえば粉飾決算などがあっても不十分な監査で終わってしまうことが少なくないのですが、アメリカでは十分な報酬と時間をかけて徹底的に監査することができます。日本はそうしたことを可能にするための監査の制度的環境がそもそも未成熟なので、まず環境を整える必要

があります。

ただ、国や社会に対して自分の考えをきちんと伝えていくには、その意見の正当性を会計学という学問の中で理論的に立証しないと行かない。そういうことを目白大学大学院の片岡先生に話していたら、「では、目白でその研究をしませんか」ということになったのです」

### 年下の教授陣にも戸惑いなし 「勉強が本当に楽しい」

加藤さんの指導教員である経営学研究科長の片岡洋一教授は、加藤さんにとっては立教大学の後輩でもあります。他の教授陣も全員年下ですが、「学問は謙虚な気持ちで臨むことが大切」と戸惑いはなし。そんな加藤さんを片岡教授は、「生涯学習を受ける実践者の鑑」と評します。

すでに孫が5人、曾孫も2人いて、悠々自適の生活をしていてもおかしくない年齢ですが、昼は自身の会計事務所毎日働きながら、4月から始まった夜の大学院の授業は5月末現在、一度も欠席することなく皆勤中。公認会計士と大学院生の二足のわらじを履いた生活を存分に楽しんでます。

「台湾に駐屯していた時期に、日本軍人として物事を簡単に諦めない性格や負けず嫌いの魂が身に付きました。それが今も変わることなく、目標に向かって頑張る向上心を生み出しているの



だと自分で思っています。

今は人生100年の時代。私にもまだまだ残り時間はたくさんあります。この歳になってする勉強は本当に楽しいです。一生懸命研究に打ち込んで、3年後には日本の監査制度の充実に寄与できる成果を示したいですね」



輝く目白の★

## 人生100年の時代 大学院で会計理論を究めたい

大学院経営学研究科経営学専攻 博士後期課程 1年  
加藤 隆之さん (公認会計士)

かとう たかゆき